


(公・事・取扱注意・親展)(写)	(発番) 全国港20FAX第53号
(宛先) 各 四役、中執、単組委員長、地区港湾議長 殿	2021年 1月25日 時 分 (発信者) 全国港湾書記局 

(件名)

1/21 海難船(神戸港にて作業中)の視察団報告について

- (本文) 1. 第6回中央執行委員会(1月12日開催)で、海難船(神戸港にて作業中)の視察を確認し、柏木委員長を含め安全専門委員を中心に10名規模で神戸港湾及びNYK神戸コンテナターミナルの協力のもと、1月21日(木)に神戸六甲アイランド(RC-6・RC-7)に於いて安全視察を行った。
2. これは、12月初旬に荒高波によるダメージコンテナを負った本船が神戸港に入港して以降、港湾労働者が安全作業に従事できているか全国港湾として視察を行ったものである。
3. 現在までに約400本のダメージコンテナを揚げており、残りが約800本ある。全て終了する予定が3月下旬まで日程を要すると予定している。作業内容は、本船よりダメージコンテナを揚げて、コンテナターミナル内に仮置きを行い、デバンニング作業を行い、その荷物を改めてバンニング作業を行っている。
4. 今後の進め方として、現在、1ギャングで荷役作業を行っているが、2ギャングにする可能性を検討している。その場合は、コンテナターミナル内(元請・専業等)で十分な安全作業が行えることを前提に全体協議を図り、進めることとしている。
5. 最後に組合より「特殊作業となることから、荷役料金及び無理のない安全作業環境を整えて十分な配慮を願う」と申し添えて終了した。

以上